ボランティア紹介

当病院で活動されているボランティアの方々の活動状況及び作品等をご紹介してまいります。

オカリナ演奏

今回は、「オカリナ演奏」の活動をご紹介します。当院のボランティアによるオカリナ演奏は、平成11年5月から開始されています。4名のメンバーが登録され、現在は毎月第3火曜日14時～15時30分まで4中病棟ラウンジで実施しています。活動内容は、患者様やご家族に演奏を聞いて頂く事と簡単な曲目の演奏指導を行っています。又、院内ふれあいコンサートには必須メンバーです。

静かで心にしみるオカリナの音色は、単調な入院生活に一時の潤いとなっています。

最近楽しい気分にさせて頂いた曲名は「崖の上のポニョ」です。患者様が自然にリズムをとっている姿を拝見したり、笑顔が見られることが活動の励みとなっています。

院内の皆様是非お立ち寄りください。お待ち致しております。

クリスマスコンサート

第72回目のふれあいコンサートが平成20年12月17日(水)に行われました。

第1部　ボランティアと職員によるオカリナ演奏

第2部　職員、看護学生、看護学校教員によるコーラス

今回は病院機能評価受審があり特に練習不足でしたが、強気で本番に望みました。オカリナ演奏は音域の異なる楽器を巧みに操る名演奏でした。第1部終了後には、伴奏担当ピアノ講師 笹島陽子先生によるピアノ演奏『ショパン ノクターン 作品9-2』が披露され素敵な時間を頂きました。コーラスでは患者様と一緒に『見上げてごらん夜の星を』を歌いました。

職員・看護学校職員、学生によるコーラス

サプライズ企画で、帰室される患者様一人一人にクリスマスプレゼントが手渡されました。ガーベラの花一輪とひまわり保育園児が作成したしおりです。しおりには「はやくよくなってください。」と記されていました。翌日の病棟ラウンド時、「昨日は楽しかった…。しおりは可愛いし、花も大事にして水取り替えているよ。」とうれしい言葉を頂きました。

患者様、ボランティア、職員、看護学校、保育園と皆々様のご協力に感謝致します。ありがとうございました。

ボランティア担当:看護局 糸賀三恵子

ご意見 Q&A

携帯電話…

意見箱より

ご意見をお待ちしております!

何かありましたら、各階にございます意見箱をご利用ください。メールによるご意見もお待ちしております。
goiken@chubyoin.pref.ibaraki.jp

Q 院内で携帯電話が使える場所を教えてほしい。

A 携帯電話の使用につきましては、一部のエリアをのぞいて使用できません。
携帯電話が使用できる場所は次のとおりです。
本館は、3階デイルーム、4階、5階、6階のエレベーターホール付近です。
また、がんセンターにつきましては、3階東側廊下、4階と5階展望室の一部です。
なお、使用の可能な場所であっても、周囲の方々に配慮して使用してください。

第14回 市民公開講座

参加無料

●開催日/平成21年3月7日(土)
●場　所/茨城県立中央病院
　外来ロビー、放射線治療センター、内科診察室

医療相談窓口の開設（12時30分～14時）
●医療相談（各診療科医師）●看護相談（看護師）
●薬に関する相談（薬剤科）●栄養相談（栄養科）

特別講演会（14時～15時15分）
●講演①「放射線治療の有用性について（仮）」
　櫻井 英幸氏（筑波大学大学院 教授）
●講演②「放射線治療センター開設にあたって」
　林　靖孝（当院放射線科医師）

放射線治療センター 一般公開（15時15分～16時）
●室内開放等 ●パネル展示

看護師募集

あなたの成長とキャリアアップをサポートします!

●看護師を目指しているあなたへ
あなたのやる気を応援します。

●在宅のあなたへ
もう一度「看護の道」にチャレンジしてみませんか?

随時50名

＊質の高い看護と魅力ある職場づくりに努力しています。
＊教育、研修、安全管理体制をしっかり整え、スタッフ全員であなたの成長を支援します。

編集後記

新しい年を迎え、毎年決まってしていることはありますか。私は、今年も健康に過ごせるよう祈願しました。

1月の寒い朝、いつものように病院の正面玄関前に、車いすが並んでいました。玄関内で、職員が車いすのタイヤの空気入れをしていて、きっと乗り心地いいんだろうな！心がホッと温かく膨らみました。ホッとするものをとって寒さ対策しましょう。

広報委員 N.K

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528　☎0296-77-1121　ホームページ http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/

IPCH 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

ほっとタイムズ

2009年2月 冬号 Vol.05

[編集・発行] 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121
ホームページ http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/

ユリノキ
県立中央病院の玄関前に「ユリノキ」があり、四季折々の表情を見せてくれます。

目次

●院長メッセージ ……P1
●病院紹介コーナー ……P2
●院内トピックスコーナー ……P2
●病気を知ろう:豆知識 ……P3
●ボランティア紹介コーナー ……P4
●患者様からのご意見Q&A ……P4

院長メッセージ

［第5回］

医療に従事する者の責務

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
院長　永井　秀雄

母が昨年、肝不全で亡くなりました。

60年前、私を生んだあとの貧血に対し、医師である父が母に輸血をしました。まもなく急性肝炎。やがて慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌。今で言うC型肝炎ウィルスの典型的な感染経過をゆっくりたどって行きました。

母の肝機能がかなり悪くなってきたころ、検査結果を私に見せながら「すまないことをした」と父は幾度となく言っていました。

「昔の医学水準なら、仕方なかったのではないですか。」

私は毎回同じ返答をしました。すると父は、必ず無言となりました。

母は黙って、医師同士の親子の会話を聞いていました。

父が最後に母を見舞ったとき、「すまなかった、すまなかった」と病室で呟いていました。母はいつものように聞こえぬ振りをしていました。が、普段と違う微妙な顔を見せました。

怨みなのか。諦めなのか。

少なくとも1人の患者としての思いだけは表情から痛切に伝わってきました。

父も寂し気でした。

長年連れ添った夫婦に生じた医師と患者の関係。

今も私は仕方のないことだと思っています。

しかし、残念なことだったという事実は忘れてはいけない。

それが医療に従事する者の責務だと感じるからです。

病院紹介

放射線治療センター開設にあたって

●放射線科　林　靖孝

現在当院では、本年4月に放射線治療センターを開設すべく皆が協力して準備をしております。開設に先立ち皆様に放射線治療センターにつきましてご紹介させて頂きます。

日本人の死因の第一位である癌に対する治療としては手術、抗がん剤治療等がありますが、放射線治療もその一角を担うものです。放射線治療はより軽度な副作用で、体の形と機能をできる限り維持しながら治療できることから「患者さんに優しい治療」としばしば呼ばれています。年齢や体力等による治療の制限も比較的少なく、1人1人の状況に合わせた治療を目指すことができます。

放射線治療センターは、通常の放射線治療装置2機の他に、主に子宮癌や前立腺癌で威力を発揮する体の中から放射線をあてるシステムを設置しています。新しく導入した治療装置は、体の外から病気だけをねらい打ちする治療（定位放射線治療）の精度向上に加え、病気に放射線を集中させ近くの重要臓器の後遺症リスクを落とす治療（強度変調照射）が実施可能なものです。先端技術を存分に活用して、患者さんの笑顔のためにスタッフ一丸となって頑張りたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

院内トピックス

ラオスの医師・看護師が研修に訪れました

独立行政法人国際協力機構（JICA）筑波の招へいによりラオスの医師・看護師が本県を訪れ保健医療・公衆衛生について研修が行われました。当院へは11月20日（木）に訪れ、当院における看護体制などの熱心な質疑も行われました。

日　時●11月20日（木）13時～16時
来訪者●ラオス青年研修員13名、通訳等 計18名
内　容●看護師の一日の業務の流れや看護体制を説明しました。さらに、病棟等視察をしました。

ラオスの国旗

5中病棟で説明を受けるラオス研修生

研修生の主な感想

●当院を視察した感想は、病院が近代的な施設である。放射線科では、撮影のみならず治療にもあたっている。機会があれば日本で研修をしたい。（医師）●病棟の看護師の業務が組織的になっている。視察できてよかった。（看護師）●ラオスでは電子カルテなどは未だ無く、紙カルテのみの記載である。日本ではかなり進んでいることがわかった、視察でき感謝している。（看護師）

看護学生さんによるクリスマスキャロリング

去る12月18日、茨城県立中央看護専門学校3年課程の1・2年生によるクリスマスキャロリングが行われました。入院されている一人ひとりの患者さんへ、看護学生さんから手作りの「しおり」を手渡していただきました。患者さんそしてそのご家族から、「ありがとう。元気がでるよ。」「あんな嬉しそうなお父さんの顔、久しぶりです。ありがとうございます。」と、嬉しいお声を頂きました。

看護学生さんの感想

●ありがとうと言われて逆に元気を頂いた。●患者さんや家族の笑顔を見て、自分が嬉しくなった。●立派な看護師さんになって下さいと励まされた。●自分たちがパワーを貰っていると感じた。●入院している患者・家族に少しでもクリスマスを感じてもらうことが出来た。●横になっていた患者さんが、起きてくれた。「直ぐに使うからね」と本にしおりを挟んでくれた。気持ちが通じていると感じた。●意識レベル低下のある患者さんにお渡した時、「分かる」「伝わっている」と感じた。等々

病気を知ろう‥豆知識

「花粉症」とは?

●耳鼻咽喉科・頭頸部外科　髙橋 邦明
●耳鼻咽喉科・頭頸部外科　芦澤 圭

冬の寒さが和らぎ、日差しに春の暖かさを感じ始めると、スギ花粉症の季節が始まります。花粉症の正体は、花粉に対して人間の体が起こす異物反応です。くしゃみ、鼻水、鼻づまりは、花粉症の典型的な症状で、体が花粉を外に出そうとする反応です。花粉症はいったん発症すると自然に治ることは期待できませんが、症状が起こるメカニズムが解明されているため適切な治療を行えば症状を抑えることが可能です。

花粉症の予防

今は花粉症でない人も、大量の花粉に出会うと体が花粉に対する抗体を産生する可能性が高くなり、何らかのきっかけで花粉症を発症しやすくなります。花粉症以外のアレルギー疾患を持っている人や、家族の方が花粉症を持っている人は、そうでない人に比べて花粉症になりやすいと考えられています。花粉になるべく接しないことは重要なことです。

マスク:花粉の飛散が多いときには吸い込む花粉を3分の1程度に減らしてくれる効果が期待されています。

うがい:のどに流れた花粉を除去する効果があり、風邪の予防にもなります。

衣服:衣服にも花粉は付きます。毛織物による上着よりも、表面がすべすべした綿やポリエステルなどの化学繊維のもののほうが花粉は付着しにくいと期待されます。

症状が出たら

花粉症の診断は花粉飛散時の症状や、血液中にある花粉に対する抗体の存在で診断されます。さらに耳鼻咽喉科では、鼻粘膜を直接見てアレルギーの反応を観察したり、鼻汁中の好酸球検査で診断します。花粉症はシーズンの早めに治療を始めることが効果的と知られています。これは症状が起こりはじめたごく初期には鼻粘膜にまだ炎症が広がっておらず、この時期に治療を開始すると粘膜の炎症を食い止め、早く正常化させることができるためです。

花粉症の治療

花粉症の治療には薬物療法や手術療法、減感作療法があります。

薬物による対症療法として抗ヒスタミン薬、化学伝達物質遊離抑制薬、ロイコトリエン拮抗薬などの内服やステロイド薬の点鼻・点眼があります。症状が強い場合には内服のステロイド薬を短期間使う場合もあります。

花粉症に対するレーザー治療は、アレルギー反応の起きる舞台となる鼻の粘膜をレーザーで焼いて過剰なアレルギー反応が起こらないようにする治療法です。麻酔薬を浸み込ませたガーゼを鼻の中に入れたのち、両側の鼻にレーザーを照射します。短時間の手術で痛みもほとんど気になりませんが、効果は2年程度と永続するわけではありません。

花粉症を根治できる治療法は現在のところ減感作療法だけです。減感作療法は抗原特異的免疫療法とも呼ばれ、花粉の抽出液を少しずつ皮下に注射し、花粉に対する免疫を獲得する方法です。しかしこの治療は花粉症の症状があるときからは始めることができず、治療に長期間かかるうえ完治する率も現在のところ必ずしも高くありません。近年、従来は注射で体内に入れていた花粉の抽出液を、口の中で舌の下に入れる舌下減感作療法が、厚生労働省の研究班で臨床試験として行われています。

花粉症の対策はこれら医療機関で行う治療と平行して、自分で花粉の暴露から身を守ることが大切です。2009年の関東地方の花粉の飛散量予測は平年並みかやや多めと言われています。鼻粘膜の状態を良く保つように、悪化の因子であるストレス、睡眠不足、喫煙、飲みすぎなどを抑えることから花粉症治療の第一歩を始めましょう。